

「気持ち」を伝えるデジタルスタンプ

概要 (めあて、学びの目標を含む)	○言葉では伝えきれない「気持ち(感情)」を伝えるデジタルスタンプをつくる。 ・目や口などの形体、色彩の違いによって、感じられる「気持ち」が変化することに気付く。 ・言葉だけでは伝えきれない「気持ち」のデジタルスタンプを3種類構想する。 ・構想した「気持ち」を塗りつぶしや複製などといったデジタル制作の特性を生かし、工夫をして表現する。 ・各自の作品を互いに鑑賞し、作品のよさや効果的に感情を伝えるための工夫について意見交換する。
評価規準	知表情や色彩が感情にもたらす効果、造形的な特徴を基に全体のイメージや作風で捉えることを理解している。 技デジタル描画の特性を生かすとともに、意図に応じて表現方法を工夫し創造的に表している。 発単純化や省略、強調などを考え、言葉だけでは伝えきれない「気持ち」を伝達する表現の構想を練っている。 鑑造形的なよさや美しさを感じ取り、伝達のための表現の工夫について考え、見方や感じ方を広げている。 感伝達の目的を考えた表現に興味をもち、デジタルスタンプの制作や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

■主な準備物

【生徒】・タブレット端末 ・描画アプリケーション(「Tayasui Sketches School」など、線描・塗りつぶし・切り抜きができるもの)

【教師】・提出用ワークシート(タブレット端末上で作成・提出できるもの)



【試行】目と口の位置や向きを変化させる



※漫符(マーク)を追加してより豊かな感情表現に

■学習の流れ

段階	活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点及び評価方法など
導入 15分	○P.87短時間でつくるメッセージを伝えるイラストレーションを描いてみようを参照し、造形の要素と感情の関係を確かめる。	○P.47表情を描くも参照させる。	態	【発言・活動の様子】
展開1 35分	①ワークシートを使って、福笑いの要領で目と口の位置や向きを工夫し、「気持ち」の伝わり方の違いを考え、試行する。 ②最近のできごとや会話、①の試行のイメージなどを基に、どのような場面で使いたいかを考え、3種類の「気持ち」を構想して、ワークシートに記入する。	○顔のパーツの配置、角度などが少し違うだけでも、表現される「気持ち」が変化することに気付かせる。 ○必要に応じて、考えた「気持ち」のアイデアスケッチも描かせる。	態 知	【活動の様子】及び 【ワークシート】 【ワークシート】
展開2 50分	③②で決めた「気持ち」を基に描画アプリケーションを使ってデジタルスタンプを描く。 ④完成したデジタルスタンプをタブレット端末上のワークシートに貼り付ける。 ※時間に余裕があれば、ポーズや漫符を追加し、多様な「気持ち」を追求する。	○アプリケーションの機能を活用し、さまざまな色彩や表情の要素の配置・構成などをシミュレーションするよう促す。 ○伝達の表現であることを再確認し、伝わりやすさを追求するよう指導する。	態 発 技	【活動の様子】 【ワークシート】 【制作中の作品】
展開3 35分	○作品を全体で共有し、タブレット端末を用いて相互鑑賞する。	○作品のよさや制作意図、伝達のための表現の工夫について着目させる。	態	【発言・意見交換の内容】及び 【ワークシート】
まとめ 15分	○相互鑑賞から発見したことや自分の課題について振り返る。	○伝達の工夫やタブレット端末での制作の特性などについて考えさせる。	態 知	【活動の様子】 【ワークシート】

◆指導のヒント

表現する「気持ち」の設定では、「嬉しい・悲しい」のように対になるものや「楽しい・とても楽しい」など、レベルの異なるものに着目することで、表現の工夫の視点が明確になることも考えられる。

◆指導のポイント

デジタルスタンプは多くの生徒にとってなじみ深く、生活の中で使うことも多いため、「こんな時に使いたい」という具体的な場面を想像しやすい。また、表情・ポーズや色彩の小さな工夫でも印象の変化が付けやすく、造形的な要素をシミュレーションしながら吟味するきっかけにもなる。

タブレット端末の特性である、複製や切り抜き、面の塗りつぶし、やり直しの気軽さなどを生かすことにより、短時間でも豊かな表現の工夫が可能であり、生徒の制作意欲の向上にもつながる。

〔ワークシートの例〕

表情を変化させてみよう



伝えたい気持ち①②③

どんな場面で使うか?

アイデアスケッチ

組 名前

「私のスタンプ」

① ② ③

工夫したところ
制作して感じたこと

「友達スタンプ①」「名前」
よさや工夫:

「友達スタンプ②」「名前」
よさや工夫: